

<今日の説教のポイント 創世記 9:18-19, 12:1-4, Iペトロ 3:18-22>

1 なぜユダヤ人なのか？ 日本人には関係ないのでは？

日本人の中には、「聖書はユダヤ人（イスラエル人）の宗教なのだから、我々とは関係ない」と思われている方もいるでしょう。そのことについて聖書は何と言っているのでしょうか。

2 ノアの洪水が持つ意味。そのノアの子孫もまた神様に背く存在。

先週までの二週の礼拝で、聖書は神様がこの世界や人間を造られたこと、その人間が神様に背いたこと、それでも神様は人間を見捨てず守ろうとされるお方であることを学びました（創世記 1-4 章）。それによって人間が増えて行った中（5 章）で起こったのがノアの洪水で（6-9 章）、これによって罪深い人間が一掃された後、信仰あついノアの子孫が再び世界に広がったことが強調されています（9:19, 10:32）。しかし、その後のバベルの塔の話は、再び人間の罪によって世界中に人間が散らされたと言っています（11:6-7）。つまり、信仰あついノアから広がった人間もまた神様に背いたのであり、今に至るまで罪なき人間はいないことが示されたのです。もちろん、私たち日本人もその中に入っているのであり、イスラエル人は私たちの代表なのです。

3 アダム→ノア→アブラハム→イスラエル→私達とイエス・キリスト

罪なき人はいない。しかし、その中で聖書は新しい話を開始します。それは、神様がアブラムという人に「私が示す地に行きなさい」（12:1）と呼びかけ、アブラムはその言葉に従い旅に出る話です（12:3）。このアブラムの子孫がイスラエル人であり、旧約聖書はこの後、イスラエル人が神様にどのような姿を示したか、またそれに対して神様はどう応えられたかを記している書物なのです。アブラハムも罪を犯しました。しかし、神様を信じて従って行く人を神様は見捨てませんでした。そして、そのアブラハムの末に神様は私たちの罪を負って死んで下さる御子、私たちの救い主なるイエス・キリストをお送り下さったのです。ペトロは、神様の警告を無視し続けてノアの洪水で死んだ人々の所までイエス・キリストは降りて彼らに赦しを宣言しその権威を示された、と言っています（Iペトロ 3:18-22。特に 18 節の内容「正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです」が大事）。この驚くべき福音が私たち日本人にも関係あるのです。イスラエル人は私たちの代表だからで